

家庭を思い出す間もなく 和気あいあいの研修

10/13
～16

女性のつばさ



「中国・香港の国境い」検問所には紅衛兵の姿があらわなく感じました

女性を海外に派遣し、視野を広め地位向上と地域発展に貢献していただくために行っている女性のつばさも4回を迎えました。今年も50の方が、香港・中国へ旅立ち、改めて隣国の文化・歴史・生活等を見聞することができました。

コース

- 1日目 香港市内観光
- 2日目 マカオと中国・中山県
(孫文の生家や記念館を視察)
聖ポール寺院跡・姻閣廟
- 3日目 九龍・新界・香港視察
(中国国境・城壁村カムティン・香港庶民の集うく女人街)を視察
- 4日目 自由行動

広い視野で世界に 目を向けるよい機会

団長 青木 佐保子 (橋場)

雨の歓迎を受けたビクトリア・ピークは、景観をみることで出来ず残念だったが、登山電車からみえる建物に、隙間ない土地利用をしなければならぬ自由の都市香港をみる事が出来た。

2日目は、孫文の生れ故郷中山県を訪問した。珠江に沿った広い道路は果しなく、広大な赤土、岩山がみえる。途中の処々に民家はあがるが、人が住めるのかと危惧する景色の中から突然「国父記念館」が現われた。そこだけに文化が集った様なこの土地から、中国革命の父孫文が誕生したのかと改めてその偉大さを感じた。



に飾られていた。「革命家に佛壇はいらない」と、その中は空であったのが印象的だった。孫文記念中学校は外から見学した。とても立派な建物

である。優秀な人材を育てるための国策はすばらしいが、帰路のそこちに見える人々の生活との違いに、これが中国なのかと素直にうなずけぬものがあった。

3日目、九龍から新界への道は片側三車線のすばらしいものだった。途中、政府の高層住宅建設現場では竹の足場が十五階位まで網の目の様に



▲ 2日目、中国・孫文の生家を訪れた

生まれ、さすがに竹の国の感じがした。赤煉瓦を一個ずつ組立てている作業員の姿も目に残った。

朝一番の坂道に汗をかきながら、中国との国境近く落馬州瞭望處に上った。ハイビスカスなど南方系の花がきれいに咲く高台の新界側では、水田の向うに住宅街がみられた。しかし反対の中国側は山と水田の中はぼつぼつと民家がみえるひなびた景色であった。帰り道国境の検問所には紅衛兵の姿が見えた。国境を知らない自分には怖くも感じた。

またたく間の4日間、不調を訴える団員もなく、家庭を思いだす間もなく、皆、和気あいあいと旅行を楽しむことが出来た。歴史の跡はもとより、隣国の生活の様子など、返還前の香港を知ることが出

来とても有意義であった。5年後どう変化するかは地元ガイドにもわからない。この研修旅行を、少しでも広い視野で世界のことにも目を向ける機会にしたいと思う。しかし、帰国して税関を通った時係員の笑顔にホッとするとともに、やはり日本はいいなと肩のバッグをゆるめた。

女性の翼の素晴らしさを沢山の人が話そうと思っている。応募より細部にわたりご指導、お世話下さいました皆様にご心よりお礼申し上げます。どうぞ、女性の翼をますます素晴らしものにしていただきます。と思います。

